美術資料通信

美術資料でつながる
まなび！net

Vol.11
2022.12

秀学社

第3弾！

『デジタル版美術資料』で何が変わる？ デザインの授業での活用法

今号では、デザインの授業における『デジタル版美術資料』の活用について、監修者の横田学先生から解説していただきます。
前号となる Vol.9 及び Vol.10 もあわせてぜひご参照ください。

横田（よこた） 学（まなぶ） 先生　プロフィール

これまでに、京都市立芸術大学教員（2002～2020年）、京都府立学校教諭、京都府教育庁指導部学校教育課指導主事、高等学校学習指導要領解説作成協力者（文部科学省）、評価規準研究開発協力者（国立教育施策研究所）、中央教育審議会教育課程部会芸術ワーキンググループ委員などに携わる。現・京都市立芸術大学名誉教授。

Q.1 絵画などの授業とデザインの授業では、『デジタル版美術資料』の活用方法に違いはありますか。

A まず、絵や彫刻とデザインや工芸との違いを確認してみましょう。
生徒の学習活動として、ともに「表現」では主題を生み出し発想・構想し制作を行い、「鑑賞」ではよさや美しさを感じ取り、作者の意図や工夫などを考えるといった見方や考え方を深めていきます。

ただし、学習の流れは似ていても、主題を生み出したり、よさや美しさを感じ取ったりするベースになるものが異なります。

○絵や彫刻：対象や事象から感じ取ったり考えたりするなど自分の（「鑑賞」では作者の）内面をもとに
○デザインや工芸：構成や装飾、伝える、使うなど（他者の）目的や条件をもとに

この違いを生徒にしっかり意識させるためにも、『デジタル版美術資料』を活用してみましょう。

Q.2 では具体的に、どのようなデザインの授業が考えられますか。

A ここでは多くの学校で実践されている、シンボルマークをデザインする題材を例に挙げて説明します。

導入では、身近なシンボルマークを鑑賞し、それらのマークの形や色など造形的な特徴から、作者の意図や創意工夫などを考えさせることから始めます。

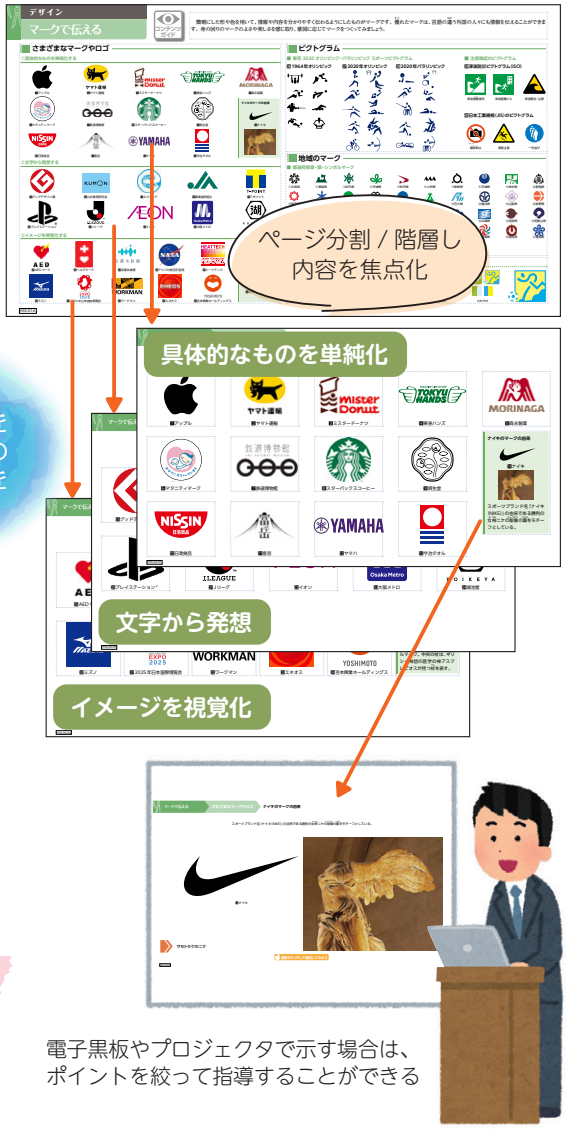
教科書には、身近な企業などのシンボルマークは掲載されていませんので、資料性が高く豊富な参考図版のある『美術資料』が重宝します。

ですが本の『美術資料』の場合は、その参考図版が、所狭しと掲載されているため、生徒によって見るところが異なり、導入の段階における一斉指導では、使いにくいと感じておられる先生も多いようです。

一方、『デジタル版美術資料』の各題材のページは基本的に本と同じレイアウトですが、大きな違いに、ページを分割して複数の画面に分け、階層化しているため、内容を焦点化させて見ることができます。これにより、電子黒板などを使って一斉に同じ図版を示すことで、生徒の意識を一点に集中させることができるでしょう。

【参考】教科書のマークやピクトグラムなどの題材

日本文教出版	1	P.44・45 わくわくコミュニケーション
	2・3	上P.38・39 ひと目で伝えるための工夫
光村図書	1	P.46・47 印象に残るシンボルマーク
	2・3	P.60・61 わかりやすく情報を伝える
開隆堂出版	1	p.40・41 ロゴマークで印象づける
	2・3	P.64・65 ピクトグラムとサイン計画

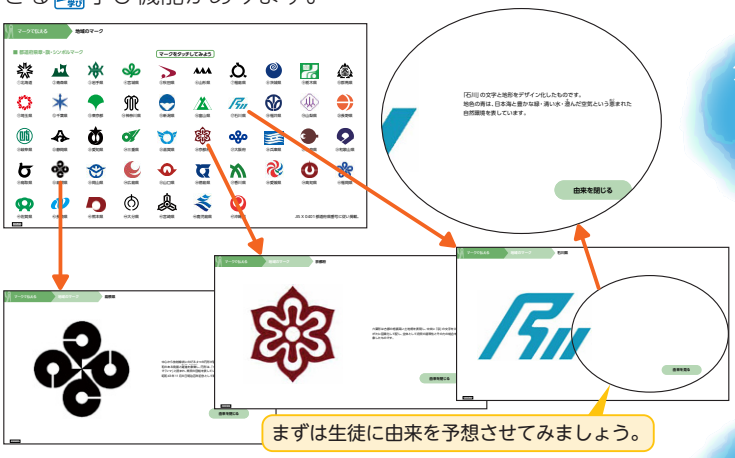


電子黒板やプロジェクタで示す場合は、ポイントを絞って指導することができる

展開では、導入で学んだ、「具体的なものを単純化」「文字から発想」「イメージを視覚化」などを手掛かりに、構想を深めていきます。その際に、自分のイメージを広げることが難しい生徒には、さらに追加の参考作品を参照させることも効果的です。

参考になりそうなページに「ふせん」を付けさせておくとスムーズに授業が進められます。なお、「ふせん」の機能や使い方については、前号の Vol.9 及び Vol.10 をご参照ください。

特に「マークを伝える」の地域のマークには、各都道府県章・旗・シンボルマークの由来を 由来を見る ボタンで確かめることのできる 学び 学び機能があります。



■ 学び機能■　情報を表示したり消したりする機能は、個々の生徒の主体的な学習だけでなく、互いに意見を出し合うグループ学習や一斉指導などの学習を深める場でも活用したいものです。

制作するマークのイメージが明確になると、次は具体的に形や色で表現していきます。

色については、生徒自身の“好きな色”もありますが、デザインの場合は、「色の整理２」や「暮らしの中の色」などを参照し、色彩が人の感情にもたらすさまざまな効果にも着目させることが大切です。

他にもポスターカラーの使用や単純化・省略・強調など表現方法の工夫は「形と色の構成」が役立ちます。

まとめは、生徒作品の相互鑑賞が多いですが、特にデザインの題材では、発想・構想から完成までの一連の制作の進め方や計画性などについて、これまで参照したページの振り返りも重要です。

目的や条件から主題を**生み出す**

展開

分かりやすさと形や色の調和を考え**構想する**

意図に応じ表現方法を**工夫する**

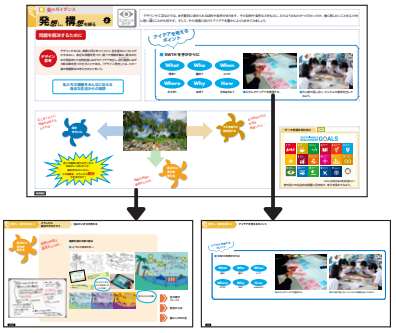
まとめ

■見方・考え方／発想・構想■

『美術資料』の「美のガイダンス」は、造形的な見方や考え方の基本、発想・構想のヒントなどを集めています。

これらは、多くの学校で一斉指導に使用したり、個別指導で生徒に参照させたりするなど、さまざまな場面で活用されています。

本の『美術資料』は、多種多様な内容が特徴です。豊富な情報は、生徒の興味関心を広げたり、学習を振り返ったりするには有効ですが、ともすれば情報の迷子になる可能性もあります。



デジタル版では、情報を整理し複数の画面に分割していますので的を絞り、また繰り返し見るページには「ふせん」を付けることで生徒の学びをサポートします。

■デザイン題材と「美のガイダンス」■

	活用する場面など
色の整理２	色彩の性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解する
配色の工夫	
暮らしの中の色	
形や色をイメージに	さまざまな表現技法を意図に応じて活用する
構成美の要素	形や構成の性質、それらが感情にもたらす効果などを理解する
情報を伝える	分かりやすく情報を伝達するための工夫や表現の効果などを理解する
発想し、構想を練る２	問題を解決するための発想・構想する（デザイン思考）
構想を形に	目的や機能を形にする（ものづくりのプロセスや考え方）
対象と向き合う	ものの形・特徴、動きなどの見方や捉え方を知る

秀学社の美術学習サポート

授業だけでなく家庭学習などにもご活用ください。

『デジタル版美術資料』特設ページはこちらから

秀学社Webサイト
https://www.shugakusha.co.jp/

まなび！net へのご意見や著者へのメッセージ、ご質問など、**「お問い合わせフォーム」**よりお気軽にお寄せください。

先生の声をお聞かせください。

お問い合わせフォーム ココから！
https://www.shugakusha.co.jp/form_otoiawase/

発行　株式会社秀学社　大阪市住吉区南住吉4-7-5